

## 東京慈恵会医科大学 数学

2019年 2月5日実施

1 次の  にあてはまる適切な数値を解答欄に記入せよ.

(1)  $xy$  平面上を動く点  $P$  が、最初に座標  $(2, 0)$  の位置にある. 白玉 2 個, 赤玉 1 個, 青玉 1 個が入っている袋から玉を 1 個取り出し, 色を調べてからもとに戻す. 取り出した玉の色によって, 次のように  $P$  を移動し硬貨をもらう試行を考える.

$P$  が座標  $(m, n)$  の位置にあるとき,

- 取り出した玉の色が白色ならば,  $P$  は座標  $(m + 1, n)$  の位置へ移動
- 取り出した玉の色が赤色ならば,  $P$  は座標  $(m, n + 1)$  の位置へ移動
- 取り出した玉の色が青色ならば,  $P$  は座標  $(m - 1, n)$  の位置へ移動

移動後に,  $P$  の  $x$  座標と  $y$  座標の和が 0 または 3 のとき, 硬貨を 1 枚もらう.

この試行を 4 回続けて行う.

このとき, 3 回目の試行で始めて硬貨をもらう確率は  (ア) であり, 4 回目の試行で硬貨をもらい, かつ, もらう硬貨の総数が 2 枚となる確率は  (イ) である.

(2)  $\triangle ABC$  において,  $AB = 4$ ,  $BC = 5$ ,  $CA = 6$  とする.  $\triangle ABC$  の重心  $G$  から辺  $BC$  に下ろした垂線を  $GH$  とするとき,  $\frac{BH}{BC}$  の値は  (ウ) である.

### 解答

(1)  $P$  の座標  $(m, n)$  に対して  $X = m + n$  とおく.  $X = 0, 3$  となるときに硬貨を 1 枚もらう, 1 回の試行において, 以下のように事象を設定する.

事象  $E$ : 取り出した玉が白色または赤色で,  $X$  が 1 増える

事象  $F$ : 取り出した玉が青色で,  $X$  が 1 減る

最初に  $X = 2$  にあったので, 3 回目の試行で初めて硬貨をもらう場合は,

$$X = 2 \rightarrow X = 1 \rightarrow X = 2 \rightarrow X = 3$$

と変化するときである. すなわち事象  $F, E, E$  の順に起こる場合なので,  $\frac{1}{4} \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{3}{4} = \frac{9}{64}$ .

また, 4 回目の試行で硬貨をもらい, かつ, もらう硬貨の総数が 2 枚となる場合を考える. 4 回目に  $X = 3$  となることはないので, 4 回目には  $X = 0$  となり硬貨をもらう.

(i) 1 回目と 4 回目に硬貨をもらう場合

$$X = 2 \rightarrow X = 3 \rightarrow X = 2 \rightarrow X = 1 \rightarrow X = 0$$

と変化するときである. すなわち, 事象  $E, F, F, F$  の順に起こる場合なので,  $\frac{3}{4} \cdot \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} = \frac{3}{256}$ .

(ii) 2 回目と 4 回目に硬貨をもらう場合

$$X = 2 \rightarrow X = 1 \rightarrow X = 0 \rightarrow X = 1 \rightarrow X = 0$$

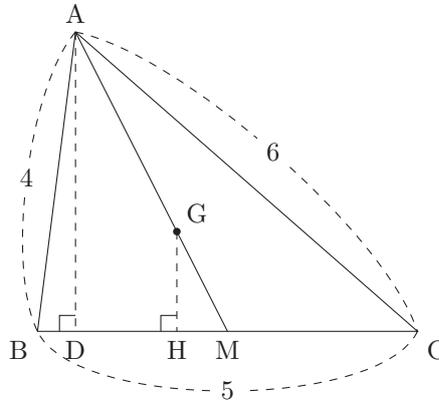
$$X = 2 \rightarrow X = 1 \rightarrow X = 0 \rightarrow X = -1 \rightarrow X = 0$$

と変化するときである. すなわち, 事象  $F, F, E, F$  または,  $F, F, F, E$  の順に起こる場合なので,

$$\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} \cdot \left(2 \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{4}\right) = \frac{3}{128}.$$

(i),(ii) より  $\frac{3}{256} + \frac{3}{128} = \frac{9}{256}$ .

(2)



図のように点をとる. 余弦定理より,

$$\cos \angle B = \frac{4^2 + 5^2 - 6^2}{2 \cdot 4 \cdot 5} = \frac{1}{8}$$

$\triangle ABD$  に注目すると,  $BD = AB \cos \angle B = \frac{1}{2}$ .

また, 重心  $G$  の性質から, 点  $M$  は  $BC$  の中点であり,

$$BM = \frac{5}{2}$$

$$DM = BM - BD = 2$$

$$HM = \frac{1}{3} DM = \frac{2}{3}$$

$$BH = BD + DH = \frac{11}{6}$$

したがって,  $\frac{BH}{BC} = \frac{\frac{11}{6}}{5} = \frac{11}{30}$ .

**別解**

余弦定理より  $\cos \angle B = \frac{1}{8}$  である. ここで  $xy$  平面上で  $B(0, 0)$ ,  $C(5, 0)$  とすると,

$$(A \text{ の } x \text{ 座標}) = AB \cos \angle B = \frac{1}{2}$$

$$(G \text{ の } x \text{ 座標}) = \frac{\frac{1}{2} + 0 + 5}{3} = \frac{11}{6} = BH$$

よって

$$\frac{BH}{BC} = \frac{\frac{11}{6}}{5} = \frac{11}{30}$$

別解

$\vec{BA} = \vec{a}$ ,  $\vec{BC} = \vec{c}$  とおく.  $\vec{AC} = \vec{c} - \vec{a}$  より,

$$\begin{aligned} |\vec{AC}|^2 &= |\vec{c} - \vec{a}|^2 \\ \Leftrightarrow 6^2 &= 5^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{c} + 4^2 \\ \Leftrightarrow \vec{a} \cdot \vec{c} &= \frac{5}{2} \end{aligned}$$

また, 点 G は  $\triangle ABC$  の重心なので,  $\vec{BG} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{c})$  であり,

$$\begin{aligned} \vec{BC} \cdot \vec{BG} &= \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{c}) \cdot \vec{c} \\ &= \frac{1}{3}(\vec{a} \cdot \vec{c} + |\vec{c}|^2) \\ &= \frac{55}{6} \\ \vec{BC} \cdot \vec{BH} &= \frac{55}{6} \\ \frac{BH}{BC} &= \frac{\vec{BC} \cdot \vec{BH}}{BC^2} \\ &= \frac{55}{6} \cdot \frac{1}{5^2} \\ &= \frac{11}{30} \end{aligned}$$

2

$a, b$  は定数で  $a > 1$  とする. 2つの曲線  $C_1: y = \frac{3e^x - 1}{e^x + 1}$ ,  $C_2: y = \frac{e^x}{a^2} + b$  が共有点  $P$  をもち, 点  $P$  において共通の接線をもつとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1)  $C_1$  の凹凸および変曲点を調べ,  $C_1$  の概形を描け.
- (2) 点  $P$  の座標と  $b$  を  $a$  で表せ.
- (3)  $C_1, C_2$  と  $y$  軸で囲まれた部分の面積  $S(a)$  を  $a$  で表せ. また, 極限值  $\lim_{a \rightarrow \infty} S(a)$  を求めよ. ただし, 必要ならば  $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x} = 0$  であることを用いてよい.

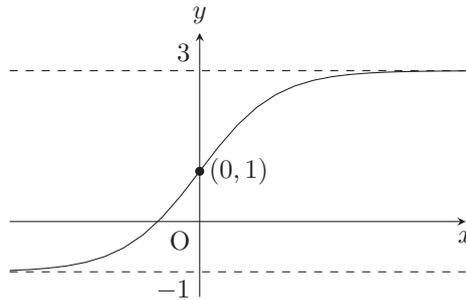
解答

(1)  $f(x) = \frac{3e^x - 1}{e^x + 1} = 3 - \frac{4}{e^x + 1}$  とする.

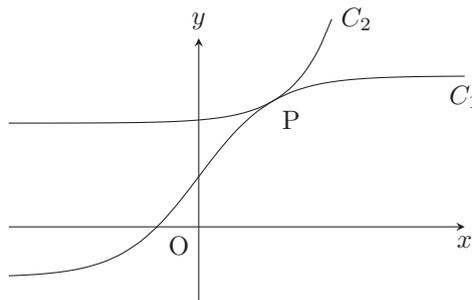
$f'(x) = \frac{4e^x}{(e^x + 1)^2} > 0$ ,  $f''(x) = \frac{4e^x}{(e^x + 1)^3}(1 - e^x)$  であるから, 増減表は次のようになる.

$x$	$-\infty$	$\dots$	$0$	$\dots$	$\infty$
$f'(x)$	/	+	+	+	/
$f''(x)$	/	+	0	-	/
$f(x)$	$(-1)$	$\nearrow$	$1$	$\searrow$	$(3)$

$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = -1$ ,  $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 3$  で, 変曲点は  $(0, 1)$  である. これより,  $C_1$  の概形は次のようになる.



(2)



点  $P$  の  $x$  座標を  $t$  とする.

点  $P$  において,  $C_1$  と  $C_2$  は共通接線をもつことから,  $g(x) = \frac{e^x}{a^2} + b$  とすると

$$\begin{cases} f(t) = g(t) \\ f'(t) = g'(t) \end{cases} \iff \begin{cases} \frac{3e^t - 1}{e^t + 1} = \frac{e^t}{a^2} + b & \dots \textcircled{1} \\ \frac{4e^t}{(e^t + 1)^2} = \frac{e^t}{a^2} & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

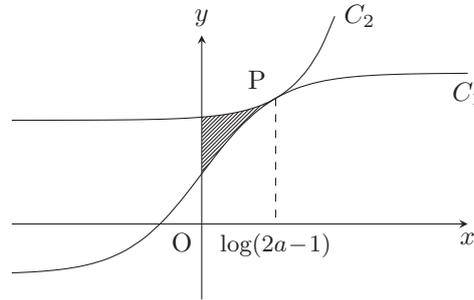
が成り立つ.

$\textcircled{2}$  から  $a^2 = \frac{(e^t + 1)^2}{4}$  である.  $a > 1$  に注意すると  $a = \frac{e^t + 1}{2}$  である. ゆえに  $e^t = 2a - 1 \dots \textcircled{3}$ .

これを①に代入して  $b = \frac{(6a-2)(2a-2)}{(2a)^2} = 3 - \frac{4}{a} + \frac{1}{a^2}$ .

また、③から  $t = \log(2a-1)$  なので、点 P の座標は  $P\left(\log(2a-1), 3 - \frac{2}{a}\right)$ .

(3)



$C_1$ ,  $C_2$  と  $y$  軸で囲まれた部分は上図の斜線部分になるから、

$$\begin{aligned}
 S(a) &= \int_0^{\log(2a-1)} \left( \frac{e^x}{a^2} + 3 - \frac{4}{a} + \frac{1}{a^2} - 3 + \frac{4}{e^x+1} \right) dx \\
 &= \int_0^{\log(2a-1)} \left( \frac{e^x}{a^2} - \frac{4}{a} + \frac{1}{a^2} + \frac{4}{e^x+1} \right) dx \\
 &= \left[ \frac{e^x}{a^2} + \left( \frac{1}{a^2} - \frac{4}{a} \right) x \right]_0^{\log(2a-1)} + 4 \int_0^{\log(2a-1)} \left( 1 - \frac{e^x}{e^x+1} \right) dx \\
 &= \frac{2a-2}{a^2} + \left( \frac{1}{a^2} - \frac{4}{a} \right) \log(2a-1) + 4 \left\{ \log(2a-1) - \left[ \log(e^x+1) \right]_0^{\log(2a-1)} \right\} \\
 &= \frac{2a-2}{a^2} + \frac{1-4a}{a^2} \log(2a-1) + 4 \log \frac{2a-1}{2a} + 4 \log 2 \\
 &= \frac{2a-2}{a^2} + \frac{1-4a}{a^2} \log(2a-1) + 4 \log \left( 1 - \frac{1}{2a} \right) + 4 \log 2 \\
 &= \frac{2}{a} - \frac{2}{a^2} + \frac{\log(2a-1)}{2a-1} \cdot \left( \frac{1}{a} - 4 \right) \left( 2 - \frac{1}{a} \right) + 4 \log \left( 1 - \frac{1}{2a} \right) + 4 \log 2
 \end{aligned}$$

$\lim_{a \rightarrow \infty} \frac{\log(2a-1)}{2a-1} = \lim_{X \rightarrow \infty} \frac{\log X}{X} = 0$  であることを注意して、 $\lim_{a \rightarrow \infty} S(a) = 4 \log 2$ .

3

$m, n$  は自然数の定数とする. 自然数  $x, y$  が不等式

$$y \leq -x^2 + 20nx, y \geq \frac{12n}{m}x$$

をみたすとき,  $m$  の値に応じて,  $y - x$  の最大値と, そのときの  $x, y$  の値を  $n$  で表せ.

解答

$x, y$  を実数とみて, 連続関数として考える.

$$\text{放物線 } C : y = -x^2 + 20nx \quad \dots \text{①}$$

$$\text{直線 } l : y = \frac{12n}{m}x \quad \dots \text{②}$$

$$\text{領域 } D : \begin{cases} y \leq -x^2 + 20nx \\ y \geq \frac{12n}{m}x \end{cases} \quad \dots \text{③}$$

$y = x - k$  とおくと,  $y = x + k$  は傾き 1 の直線を表す. これが  $C$  と接するとき, ① より  $y' = -2x + 20$ .  $y' = 1$  より,  $-2x + 20n = 1$ , すなわち  $x = 10n - \frac{1}{2}$ .

したがって,  $x$  は自然数なので, 点  $(x, y)$  が  $C$  上にあるとき,

$$(x, y) = (10n - 1, 100n^2 - 1) \text{ または } (10n, 100n^2)$$

のどちらかで  $k$  は最大になる.

また,  $C$  と  $l$  の交点は ①, ② から

$$-x^2 + 20nx = \frac{12n}{m}x \iff x = 0, 20n - \frac{12n}{m}$$

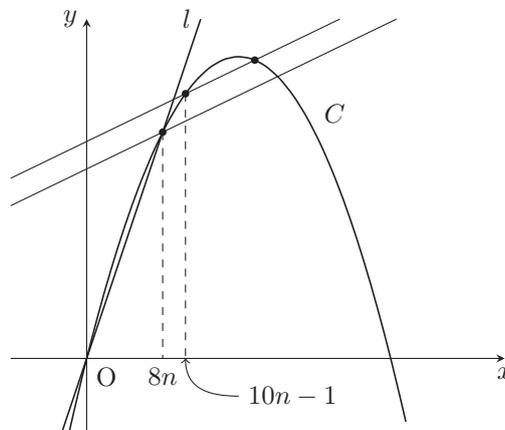
である.

(i)  $m = 1$  のとき

$n$  は自然数であるから

$$10n - 1 > 20n - \frac{12n}{1} = 8n$$

したがって,  $k$  が最大となるのは,  $(x, y) = (8n, 96n^2)$  のときであり  $y - x = 96n^2 - 8n$  である.



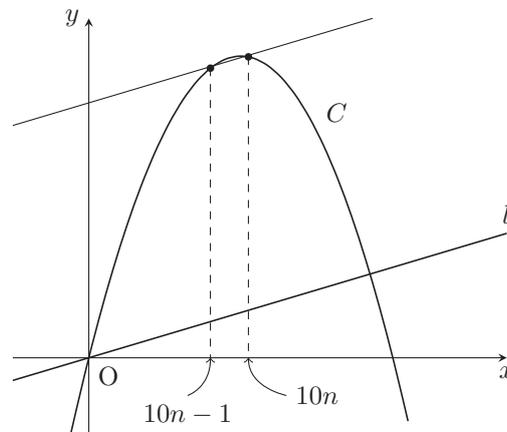
(ii)  $m \geq 2$  のとき

$$20n - \frac{12n}{m} \geq 20n - \frac{12n}{2} > 10n$$

したがって、 $k$  が最大となるのは、

$$(x, y) = (10n - 1, 100n^2 - 1) \text{ または } (10n, 100n^2)$$

のときであり、ともに  $y - x = 100n^2 - 10n$  である。



したがって、

- $m = 1$  のとき  
 最大値  $96n^2 - 8n$ ,  $(x, y) = (8n, 96n^2)$ .
- $m \geq 2$  のとき  
 最大値  $100n^2 - 10n$ ,  $(x, y) = (10n - 1, 100n^2 - 1)$  または  $(10n, 100n^2)$ .

4

方程式  $x^3 + 1 = 0$  の解のうち、虚部が正であるものを  $\alpha$  とする。複素数平面上の 3 点  $A(\alpha)$ ,  $B(-1)$ ,  $C(\bar{\alpha})$  を頂点とする  $\triangle ABC$  を考える  $\triangle ABC$  の周上の点  $P(z)$  に対して原点  $O$  を端点とし、 $P(z)$  を通る半直線上に  $|w| = \frac{1}{|z|}$  をみたす点  $Q(w)$  をとるとき、次の問いに答えよ。ただし、複素数  $\gamma$  に共役な複素数を  $\bar{\gamma}$  で表し、複素数平面上で複素数  $\gamma$  を表す点  $G$  を  $G(\gamma)$  と書く。

- (1)  $w = \frac{1}{z}$  となることを示せ。
- (2)  $P(z)$  が  $\triangle ABC$  の周上を動くとき、 $Q(w)$  が描く図形によって囲まれた部分の面積  $S$  を求めよ。

解答

(1) 点  $Q$  は半直線  $OP$  上に存在するので、ある実数  $t$  を用いて

$$w = tz \quad (t > 0)$$

とおくことができる。このとき、

$$|w| = |tz| \iff |w| = t|z|$$

であり、 $|w| = \frac{1}{|z|}$  に代入すると、

$$t|z| = \frac{1}{|z|} \iff t = \frac{1}{|z|^2} = \frac{1}{z\bar{z}}$$

となるため

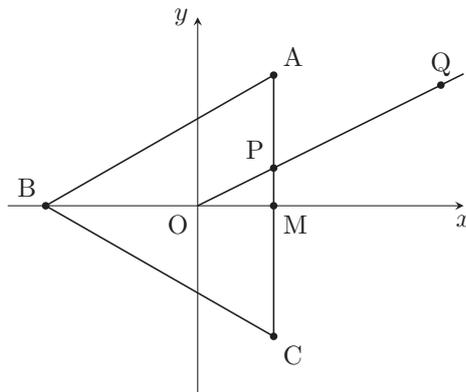
$$w = \frac{1}{z\bar{z}}z = \frac{1}{z}$$

(2)  $x^3 + 1 = (x + 1)(x^2 - x + 1) = 0$

$\alpha$  は虚部が正なので、 $\alpha + 1 \neq 0$  であるため、 $\alpha$  は  $\alpha^2 - \alpha + 1 = 0$  を満たす。これを解くと  $\alpha = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$  で

あり、 $\alpha$  の虚部は正であるから、 $\alpha = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2}$  である。

$z = x + yi$ ,  $w = X + Yi$ , 線分  $AC$  の中点を  $M$  とし、点  $P$  が線分  $AM$  上にあるときを考える。



このとき

$$x = \frac{1}{2}, \quad 0 \leq y \leq \frac{\sqrt{3}}{2} \quad \dots \textcircled{1}$$

である。(1) より、

$$w = \frac{1}{z} = \frac{x}{x^2 + y^2} + \frac{y}{x^2 + y^2}i$$

であるから、①より

$$w = \frac{2}{4y^2 + 1} + \frac{4y}{4y^2 + 1}i, \quad 0 \leq y \leq \frac{\sqrt{3}}{2}.$$

したがって、

$$X = \frac{2}{4y^2 + 1}, \quad Y = \frac{4y}{4y^2 + 1} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$0 \leq y \leq \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ より } 0 \leq y^2 \leq \frac{3}{4} \text{ である. } \textcircled{2} \text{ より } \frac{1}{2} \leq X \leq 2 \quad \dots \textcircled{3}.$$

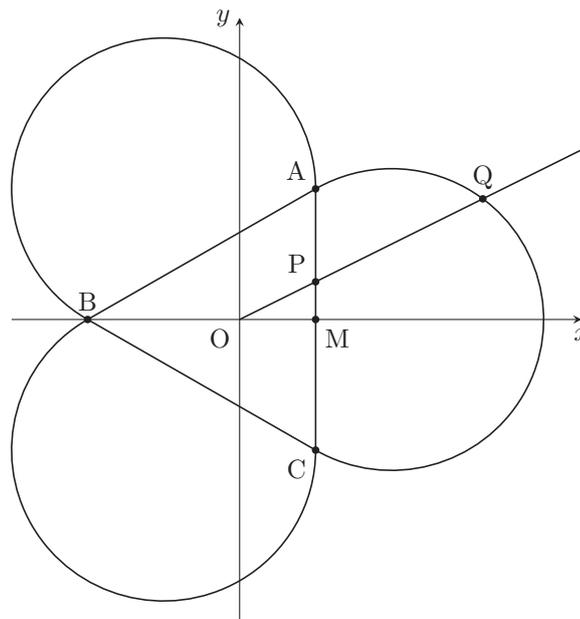
$$\textcircled{2} \text{ より } Y = 2yX \text{ であり, } X \neq 0 \text{ から } y = \frac{Y}{2X}. \text{ よって}$$

$$X = \frac{2}{4\left(\frac{Y}{2X}\right)^2 + 1} = \frac{2}{\frac{Y^2}{X^2} + 1}$$

$$\Leftrightarrow X^2 + Y^2 - 2X = 0$$

$$\Leftrightarrow (X - 1)^2 + Y^2 = 1$$

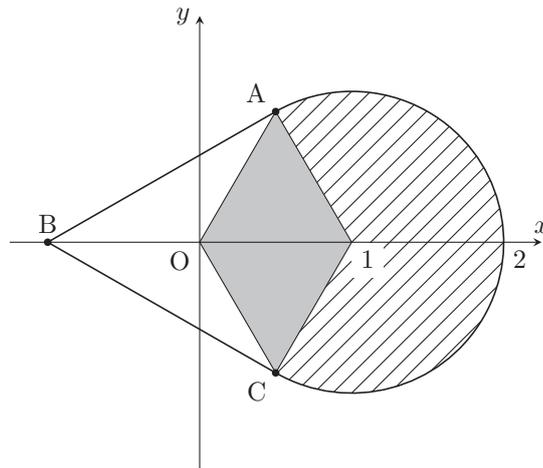
したがって、点 P が線分 AM 上を動くとき、点 Q は円弧  $(X - 1)^2 + Y^2 = 1, \frac{1}{2} \leq X \leq 2, Y \geq 0$  を描く。  
図形の対称性から、次の図のようになる。



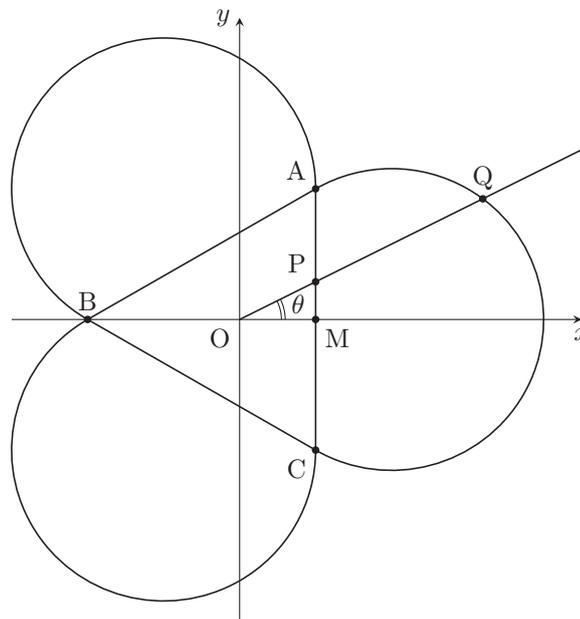
したがって、囲まれた図形の面積  $S$  は、

$$\frac{S}{3} = \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \frac{4}{3}\pi + \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sqrt{3}$$

$$S = 2\pi + \frac{3\sqrt{3}}{2}.$$



別解



$|z| = r_1$ ,  $|w| = r_2$ ,  $\arg z = \theta$  とおく. 点 P が線分 AM 上を動くとき  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{3}$  であり,

$$OP \cos \theta = OM$$

$$\Leftrightarrow r_1 \cos \theta = \frac{1}{2}$$

$$\Leftrightarrow r_1 = \frac{1}{2 \cos \theta}$$

(1) より

$$r_2 = \frac{1}{r_1} = 2 \cos \theta$$

点 P が AM 上を動くときに点 Q が描く図形の極方程式は  $r = 2 \cos \theta$  である.

対称性から求める図形の面積は

$$\begin{aligned}\frac{S}{6} &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{2} r^2 d\theta \\ S &= 3 \int_0^{\frac{\pi}{3}} (2 \cos \theta)^2 d\theta \\ &= 3 \int_0^{\frac{\pi}{3}} 2(1 + 2 \cos \theta) d\theta \\ &= 3 \left[ 2\theta + \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= 2\pi + \frac{3\sqrt{3}}{2}.\end{aligned}$$

## 講評

### 1 (小問集合)

#### (1) 確率

一見ややこしそうな設定だが、事象をまとめると計算はシンプル。ここは落とせない。

#### (2) 平面図形

教科書の練習問題レベル。様々な解法が選択できる。ここも落としてはいけないだろう。

### 2 (微分法・極限)

計算結果は煩雑だが、計算量もそれほど多くなく、ミスに気を付けて丁寧に解き進めて欲しい。最後の極限計算は、上手く変形して与えられた形を作りたい。

### 3 (格子点と最大値)

$x, y$  が実数であるときと同様に考え、領域を図示し、直線との共有点を考えるのだが、直線の傾きを考えると場合分けが必要になる。また  $x, y$  が自然数である点にも、気を付けなければならない。数学力が試される問題だろう。

### 4 (反転)

複素数平面の典型問題。一度は解いたことがあるテーマだろう。ここの出来で差がつきやすいだろう。

全体として易化しており、例年よりも数学で差がつきやすいセットだった。7割とって欲しいが、1次突破ラインは60%強だろう。

本解答速報の内容に関するお問合せは

メルマガ登録またはLINE友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE登録

